令和２年度（第 64 回）
岩手県教育研究発表会発表資料

いきる・かかわる・そなえる分科会

「交流学習スクール」

模擬株式会社「宮商デパート」と「まちづくり学習会」の実践報告

令 和 ３ 年 ２ 月 １ ０ 日
岩手県立宮古商工高等学校

１　はじめに

本校は 1919（大正 8）年宮古尋常高等小学校に高等小学校卒業を入学資格とする町立宮古実業補習学校を認可併置し開校した岩手県立宮古商業高等学校と、1973（昭和 48）年に開校した宮古工業高等学校が統合し、令和 2 年 4 月に岩手県立宮古商工高等学校として開校した。設置学科は機械システム科、電気システム科、総合ビジネス科、流通ビジネス科、情報ビジネス科の 5 学科 5 学級で、それぞれの校舎（商業校舎・工業校舎）を利用する県内初の校舎制が採用されている。生徒数は令和 3 年 1 月現在、商業校舎 363 名、工業校舎 156 名となっている。

今回の発表内容は統合以前の平成 30 年度より旧宮古商業高校が「いわての復興教育推進事業（交流学習スクール）」の研究指定を受け、取り組んだ学習内容である。

２　地域の実情

宮古市は東日本大震災による甚大な被害を受けながらも、地域防災拠点となる市役所庁舎「イーストピアみやこ」のオープンや、三陸沿岸道路の整備などが進み、震災以前よりも活気と魅力に溢れたまちづくりを目指して現在、歩みを進めている。しかし、令和元年に発生した台風 19 号によって、全線運行を再開した三陸鉄道が再び一部で運行不能の状況を余儀なくされ、また新たな観光及び物流の交流ルートとして期待された「宮古―室蘭フェリー」が休止となるなど、現状は決して易しいものではない。そのような中で本校は、地域に根ざした実業高校として、社会で幅広く活躍する人材の育成を目指し、地域の復興を果たすために産学官と連携した様々な事業に継続して取り組んでいく必要があると考え実践を行った。

３　本校におけるいわての復興教育スクール（交流学習スクール）の位置づけ

本校において推進するいわての復興教育スクール（交流学習スクール）は主に下記の２つの活動が中心となっている。

復興教育スクール
（交流学習スクール）

（1）模擬株式会社「宮商デパート」の取り組み
・実地研修　外部講師による接客講座等

（2）まちづくり学習会
・地域の復興を目指し、地域の諸課題の解決に向けた調査研究

４　模擬株式会社「宮商デパート」の活動について

本校では 50 年以上にわたって開催されていた「宮商マーケット」を平成 15 年度より模擬株式会社「宮商デパート」と改め、「総合的な学習（探究）の時間」の一環として実践的な学習活動に取り組んでいる。本年で創業 18 年目を迎え、平成 20 年にはキャリア教育文部科学大臣表彰を受賞するなどの成果を上げている。本行事は毎年 2 日間の開催で約 3,000 人の来場者があり、地域住民からの期待の高いイベントとして定着している。震災以降も地元企業の協力を得ながら継続して出店を重ね、地域と共に歩んできた経験から本校では宮商デパートの活動自体を「復興教育の柱」として位置づけている。その上で、総合的な学習（探究）の時間の目標を定め、事業内容を展開している。

組織の形態は委員会組織の宮商デパート実行委員が主体となり、全校生徒の指導的役割を果たしている。この活動は、1 株 500 円を生徒 1 株、教職員 3 株の出資により、全生徒・全教職員が参画する体制を構築し、マーケティング能力、会計活用能力、情報活用能力、コミュニケーション能力、職業観・勤労観などを身につける機会とし実践的・体験的学習を展開している。模擬株式会社として株主総会をはじめ、各テナント店舗での仕入計画から販売企画、商品管理、経理事務、取締役会での広報活動、催事活動など、経済社会の事象を生徒自らが主体的に活動を行っている。

令和 2 年度は経営スローガンを「新しい始まり～伝統を大切にして～」と設定し、テナント店舗を 23 店舗運営し、日本全国の物産店や惣菜、青果、車販売店、食堂などの出店を行う予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、創業以来初の中止となり、利益の一部を義援金として送付する地域貢献活動も、残念ながら実現することができなかった。

宮商デパート全体計画

校訓
尽心　礼節　中庸

学校教育目標
1．意欲的に問題に取り組み、自分で考え抜く態度を養う。
2．基本的な生活習慣を身につけ、行動を自律できる能力を養う。
3．勤労意欲と実践力を育て、自己を実現させる能力を育てる。

総合的な学習（探究）の時間の目標
1．店舗の企画から運営を体験し、顧客への販売や接客技術を学ぶとともに、将来に向けて自己の在り方や生き方を考えさせる。
2．ビジネスの諸活動を体験することで、望ましい勤労観・職業観を身につけ、社会人に向けた自立心やマナーなどを身に付けさせる。
3．自ら課題を見付け、主体的に判断し、より良く課題を解決する資質や能力を身に付けさせる。また、学年を越えた活動を通じて共同的に取り組む態度を育てる。

学年のテーマと評価の観点

１学年テーマ	２学年テーマ	３学年テーマ
「聞く・理解する力」 基本的な役割を理解した上で、状況ごとに求められる役割を認識する力を身に付ける。 与えられた役割に従い、期待される成果を目指して忠実に行動する力を身に付ける。 指示に従い与えられた職務を実現できるように学習する姿勢を身に付ける。	「段取り力」 効率的に仕事を進めるため、一歩先を予測して優先順位や業務手順を決定する力を身に付ける。 業務上の手順や順序の重要性を理解し、一つ一つ確実に積み上げていく力を身に付ける。 「サポート力」 力になれる事柄を見つけ出し、「自分の力を提供」する事で、周囲に貢献する力を身に付ける。 積極的にリーダーに協力し、組織の目標達成に貢献する力を身に付ける。	「先見力」 情報等を参考にし、様々なものの流れを読み取る力を身に付ける 予測する状況における対応策を準備する力を身に付ける。 「指導力」 持っている知識や能力を広げる事で、周囲に貢献できる力を身に付ける。 学年や性別にこだわらず、周囲に対し指示命令、指導を行う力を身に付ける。
評価の観点 ・学習対象に対する関心・意欲 ・学習対象とかかわりをもとうとする態度 ・情報を集める力	評価の観点 ・問題を発見し把握する力 ・活動計画を立案し、解決する力 ・追求の課程の成果をまとめる力 ・学習対象に対する関心・意欲 ・学習対象とかかわりをもとうとする態度	評価の観点 ・分析的な考え方　決断する力 ・実行する力　総合的な考え方 ・報告や発表の仕方 ・学習対象に対する見方・考え方（勤労観・職業観） ・自分の良さや自信 ・夢や希望

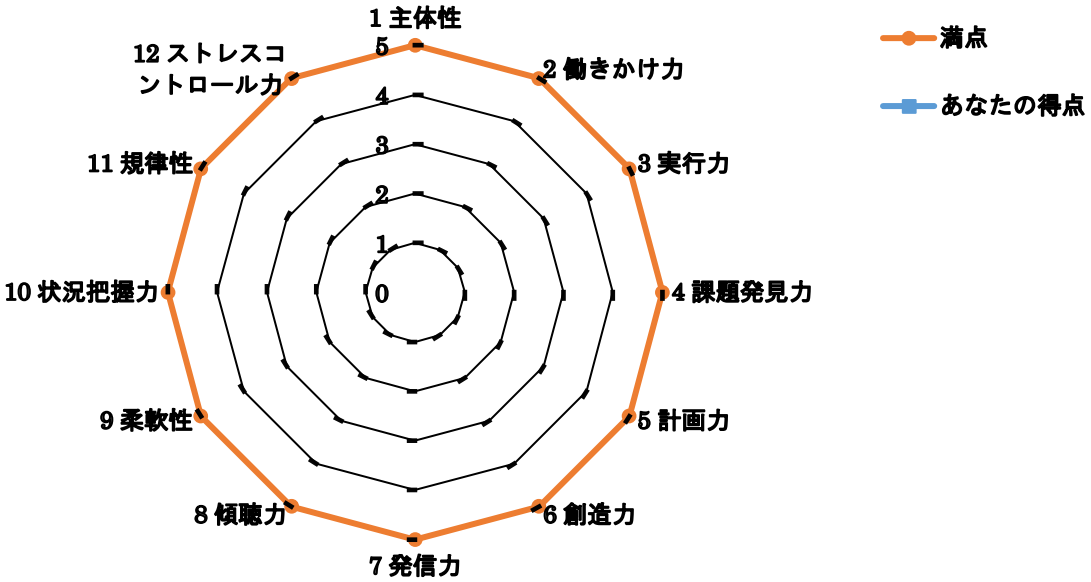
学習評価の方法

「宮商デパート2019」 自己分析振り返りシート

年　　組　　番　　氏名

各項目ごとの点数をプロットしてバランスシートを作成してください。１番外側が５点です。

作業１　入社試験時に行った点数を青色ペンで囲ってください。〔宮商デパートファイルより〕
作業２　自己分析シートの結果を赤色ペンで線を囲ってください。



このシートは経済産業省が提唱する

「社会人基礎力」・・職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力を図る指標になります。上記の結果を踏まえ、１年間で成長した項目・自分自身の強み・今後伸ばしていく部分に分類し、今後の改善点を見つめ直し、文章で記入しましょう。

	１年間で成長した項目	強み（評価：４・５）	今後伸ばしていきたい要素（評価１・２）
番号・項目			
良い点（強み） 改善点（弱み）			

販売活動の様子

体育館内の様子

宮古市長へ義援金贈呈
（H28 年度宮古市を通じて熊本県へ）

５　令和２年度　復興教育スクール（交流学習スクール）事業の目標

いわての復興教育プログラムにおける３つの教育的価値を主眼に置き生徒の育成に努める。また、本校が掲げる教育目標の下、目指す人物像を意識しながら各事業の目標設定を行う。事業ごとの目標については下記のとおりである。

（１）外部講師招聘事業「接客に関わる講演」１回

お客様に対する対応の仕方や接客方法に関する講演を受けることで、生徒一人ひとりが、宮商デパートの販売員としての意識を高める。宮商デパート全般の経営指導を受けながら、各店舗での仕入計画から販売企画、商品管理、経理事務、広報活動、催事活動など、経済社会の事象を生徒自らが学ぶ機会とする。

３つの教育的価値	･･･	具体の 21 項目
【い き る】	･･･	④夢や希望の大切さとやり抜く強さ　⑤自分の成長

（２）実地研修（盛岡駅ビルフェザン）※新型コロナ感染拡大に伴い本年度は「中止」

被災地への支援活動を継続的に行っている企業を訪れ、復旧・復興に向けた取り組みについて学ぶ。社長や副社長、テナントの店長（3 年生）を参加対象とし、販売のプロから直接アドバイスを受けながら、研修を通じてリーダーシップに磨きを掛けることで今後の模擬株式会社の運営に生かす。また、商品販売のための接客技術の向上や売場のレイアウト設計や商品知識の習得を目的とする。

３つの教育的価値	･･･	具体の 21 項目
【い き る】	･･･	⑤自分の成長
【かかわる】	･･･	⑨仲間とのつながり　⑪ボランティア・救援活動

（３）模擬株式会社「宮商デパート」出店協力（県立盛岡商業）

※新型コロナ感染拡大に伴い本年度は「中止」

内陸部の「商業」を学ぶ生徒と共に販売活動を行うことで地域の活性化に取り組む。内陸部の生徒に沿岸部の現状を理解してもらうとともに、現在までの復興の状況を発信する機会とする。

３つの教育的価値	･･･	具体の 21 項目
【かかわる】	･･･	⑨仲間とのつながり

【評価方法】宮商デパート営業日誌　自己分析振り返りシート　感想用紙　（１）～（３）も同様

（４）まちづくり学習会（岩手県立大学准教授・学生等）

外部講師を招いてのワークショップを月１回程度（計７回）実施し、震災以降の宮古市のまちづくりについて学ぶ。地域の実情を知り、生徒自身が地域の振興や活性化について興味をもちながら主体的に取り組むことができるよう展開する。また、今後の宮古地域における地域創生の在り方について考え、研究していく。

３つの教育的価値	･･･	具体の 21 項目
【い き る】	･･･	⑤自分の成長
【かかわる】	･･･	⑨仲間とのつながり　⑩地域とのつながり
		⑫自分と地域社会　⑬復旧・復興のあゆみ
【そなえる】	･･･	⑱災害のライフライン・地域経済への影響

【評価方法】　ポートフォリオの作成を年１回実施し、集約と分析を行う

６－１　模擬株式会社「宮商デパート」の取り組み

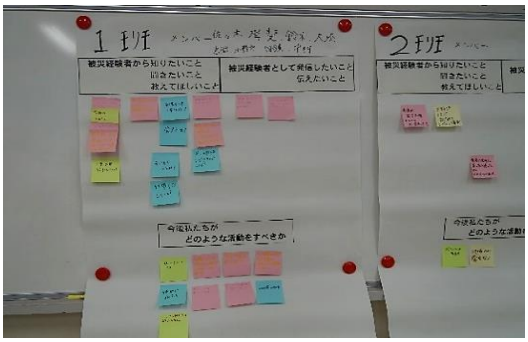
（1）平成３０年度

取り組み	期　日	内　容　等
復興教育講演会	9 月 26 日（水）	講　師：株式会社マイヤ代表取締役会長　米谷　春夫　様 演　題：東日本大震災からの復旧・復興の歩みと今後
意見交換会	9 月 26 日（水）	参加校：盛岡商業　宮古北　岩泉　宮古商業 助言者：株式会社マイヤ代表取締役会長　米谷　春夫　様 内　容：復興・支援活動に関わる各校の実践報告 グループワーク（ＫＪ法） 発表とまとめ ①被災経験者から知りたいこと ②被災経験者として発信したいこと ③今後私たちができること
外部講師を招聘しての接客講座①	10月17日（水）	講　師：Ｚｏｆｆ盛岡フェザン店　山形　歩民　様 演　題：「もっと伝わるあいさつ　もっともっと伝えよう感謝の気持ち」
外部講師を招聘しての接客講座②	10月24日（水）	講　師：株式会社アダストリアＬＯＷＲＹＳＦＡＲＭ 盛岡フェザン店　店長　高村　暁穂　様 演　題：「人の力で売上をあげる」 内　容：商品の魅力訴求（メリットピックアップ）
模擬株式会社「宮商デパート」イベント出演	10月27日（土）	参加者：岩泉高校　郷土芸能同好会 内　容：中野七頭舞
模擬株式会社「宮商デパート」出店・イベント出演	10月28日（日）	参加者：盛岡商業高校　さんさ委員会　盛商マート担当者 内　容：盛商マート（販売活動） 盛商さんさ

復興教育講演会の様子

意見交換会の集合写真

意見交換会の様子



グループワークの資料

（2）令和元年度

取り組み	期　日	内　容　等
実地研修	8 月 28 日（水）	場所：盛岡駅ビルフェザン 対象：宮商デパート社長　副社長　各テナント店長
外部講師を招聘しての接客講座①	9 月 18 日（水）	講　師：株式会社アダストリアＬＯＷＲＹＳＦＡＲＭ 盛岡フェザン店　店長　高村　暁穂　様 演　題：「お客様と心でつながる接客」
外部講師を招聘しての接客講座②	10 月 2 日（水）	講　師：株式会社アダストリアＬＯＷＲＹＳＦＡＲＭ 盛岡フェザン店　店長　高村　暁穂　様 演　題：「マーチャンダイズアプローチの手法について」 内　容：グループワーク
模擬株式会社「宮商デパート」での出店協力	10月20日（日）	参加者：水沢商業高校 内　容：ござえんちゃハウス（販売活動）

ア　実地研修

東日本大震災後に沿岸地域との協働に取り組む盛岡駅ビルフェザンでの実地研修を実施した。目的は復興に向けた企業の取組について知ること、宮商デパートに向けて接客技術の向上や売り場のレイアウト設計、商品知識を習得することである。最初に盛岡駅ビルフェザン様が学生と取り組む“スマイルチャージいわてプロジェクト”の概要について受講した。県内の大学生と協働して取り組む地域活性化の様子を知ることができ、今後の活動の参考にすることができた。その後、各売り場の見学やフィールドワークを行い、プロの販売員の姿から多くの刺激を受けた。昼食を挟み、各グループごとに話し合いを行い、各テナントが抱える課題について共有し、解決の方法について協議を行った。各班の発表後にプロの販売員からの助言を受けることで、社長や店長といったリーダーの言動が全体にもたらす影響について学ぶ機会となり、大変貴重な体験となった。研修を通して、高校生自身が接客を通じてお客様へ笑顔や満足感を提供し、行事を通じて地域を盛り上げたいという想いを強くしたようであった。

また、同日において副店長を対象とした大槌町（株式会社マイヤ　マスト店様）での実地研修を予定していたが、当日の大雨による避難勧告の発令により実施が困難なことから中止となった。

〔行程〕

10：30～10：45　フェザン到着
10：45～11：00　研修全体説明
11：00～11：45　館内視察
11：45～12：45　昼食
12：45～13：15　フィールドワーク
13：15～15：00　グループ毎に発表会とディスカッション

実地研修の様子

生徒からの感想（一部抜粋）

・企業が取り組む岩手の復興に向けた取り組み内容に刺激を受けた。
・店長としての責任と覚悟を持ち、仲間達を率いていければと強く感じました。
・店長のお話を聞いて、運営側、店長として以前よりも自覚が生まれました。講話の中で「次への財産」「育成」というキーワードが多く出てきて、自分自身や宮古商業として最後のデパートで何を次へとつなげることができるか考えさせられました。
・従業員とのコミュニケーションや１年生の育て方は店長である自分が一番重要になってくる。
・お客様に笑顔で話しかけたり、明るい挨拶をされていて、私にはできていないことだったので、宮商デパートでは実行していきたいです。
・どのお客様にも足を運んでいただけるよう、笑顔で明るく誠意を持って皆で接客したいと思いました。お忙しい中、従業員の方々に丁寧に対応していただき本当に感謝の気持ちで一杯です。

（3）令和２年度

ア　外部講師を招聘しての接客講座

令和 2 年 10 月 14 日（水）の 5 校時「総合的な探究の時間」において株式会社アダストリア北日本支店グループマネージャーの高村暁穂　様をお招きし、商業校舎 1 年生 116 名を対象とした接客講習講座を開催した。「これからのリアル店舗の価値とは」を演題に、コロナ禍で人との関わりが減少する中、円滑な人間関係の構築に欠かせないコミュニケーションスキルを生徒自身が体験する貴重な機会となった。特にも「積極的傾聴」＝アクティブリスニングの重要性に気づき、その後のペアワークでは、「耳・目・心」で相手の話を傾聴する姿勢が見られるなど実践を通じて学びを深めた。ペアワークでは相手に対する反応のないいわゆる「石」の状態と、それ以外のパターンを実施し、生徒に比較させることで、言葉以外の情報を汲み取ることや相手に聞いているというサインを送ること、表情や声のトーンで相手に安心感を持ってもらうことが大切であると学ぶことができた。残念ながら、高校入学後始めての宮商デパートは中止となってしまったが、次年度の開催に向けての心構えや接客の基礎を学ぶことができ、大変有意義な講座となった。

講演の様子

活動（ペアワーク）の様子

６－２　まちづくり学習会関連

（1）令和元年度

東日本大震災による深刻な被害を受けた宮古市において、観光交流の活性化のため観光資源の集中する「浄土ヶ浜」地区の保全と整備、体験型観光の推進、観光の振興と施設の利活用促進に向けた取り組みが進められている。さらに平成 25 年に三陸復興国立公園の指定、三陸ジオパークの認定を受けたことから、地域の観光資源を生かした「観光ビジネス」の必要性が高まっている。

昨年度より、宮古市の都市計画審議会会長である岩手県立大学総合政策学部　宇佐美誠史　准教授と岩手県立大学に通う大学生を招き、震災以降の宮古市の「まちづくり」について学びを深めている。目的は生徒自身のキャリア形成を行う上で地域の学びを深め、宮古地域の将来を創造する人材育成につなげることである。

まずは生徒自身が宮古地域の現状から諸課題を挙げ、研究テーマを設定することから学習会を始めた。テーマ設定の中で「地域の発展」と「観光」を結びつけて考える班が多く、観光分野に関する興味・関心が高いことがわかった。一方、学習活動を継続する中で地域の現状について理解が浅い部分があり、潜在化された観光資源の存在などに目を向け、理解を深める時間が必要であることを実感した。また、「観光」を考える上でインフラ整備や交通手段等の改善など諸問題が多岐にわたる中、高校生の視点で改善できる可能性が多くあることも認識することができた。その認識が各グループの研究内容の具体化につながり、多様な視点で活動を行う基礎となった。

調査・研究の具体的な取り組みとして、市内での現地調査を行い、生徒自身が地域の実情を知り、地域振興や活性化について興味を持ちながら主体的に取り組むことができるよう展開を行った。現地調査では宮古市役所やフェリーターミナル、浄土ヶ浜レストハウス、商店街や管内の企業の協力をいただきながら、生徒が疑問に思うことへの回答や、今後の研究の方向性について貴重な意見とアドバイスをいただいた。現地調査後は、街頭アンケートや聞き取りの結果を集約し、現在の課題と解消の手立てについて考える機会を設けた。その後、各グループが設定した仮説に対する検証を行い、一年間の研究のまとめを行った。残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大にともない、グループ単位で

の活動制限の影響を受けたことで活動の停滞を招き、3月に予定していた成果発表会を実施することができず、次年度への課題を残した。

ア　令和元年度のまちづくり学習会の事業計画・内容　授業：「ビジネス基礎」

回　数	期　日	内　容
第1回	7月17日（水）	ワークショップ　ＳＤＧｓについて グループ作り（各班5～7名）　ポートフォリオ作成
第2回	8月21日（水）	グループワーク　メインテーマ決め（下記①～④） ①公共交通の利用促進　②末広町商店街の魅力増進 ③観光地へ人を呼び込む　④宮古を若者が住み続けられるまちにする サブテーマの決定・現地調査での質問内容の検討
第3回	9月12日（木）	現地調査（宮古市内での聞き取り・アンケート） 訪問場所：宮古市役所、末広町商店街、宮古駅 宮古市魚菜市場、浄土ヶ浜、シートピアなあど ゲストハウス、管内企業等
第4回	11月21日（木）	集計・分析、発表資料の作成
第5回	12月 5日（木）	プレゼンテーションの仕方・スライドの作成について
第6回	12月19日（木）	講演　末広町商店街での社会実験について （終日の一方通行・スラロームの設置） 講師：宮古市　都市整備部　都市計画課 管理計画係長　平井　純　様 中間発表会と講師からの指導・助言
第7回	3月20日（金）	イーストピアみやこでの成果発表会 ※新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止

まちづくり学習会の様子（グループワーク）

宮古市役所内宮古産業支援センター訪問

中間発表会資料（ポスター作製）

株式会社三陸鉄道訪問

イ　令和元年度　各班の研究テーマ（①～④の表示はメインテーマ）

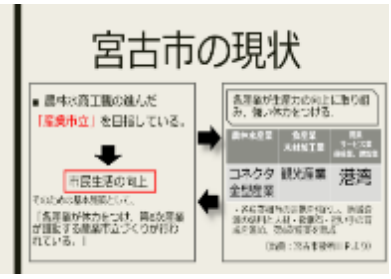
班	商　業　科	流通経済科
1班	②末広町商店街の魅力発信 ～ゲストハウスがもたらすか可能性を探る～	③観光地へ人を呼び込む　おもてなし検定の発信 ～おもてなし隊の活動を通して～
2班	③観光地へ人を呼び込む ～浄土ヶ浜の魅力増進のために～	③観光地へ人を呼び込む ～シルバーフェリー　宮古市と室蘭市の開港をきっかけに人の流れは変わったのか～
3班	③観光地へ人を呼び込む ～宮古市魚菜市場の利用促進～	③観光地へ人を呼び込む ～観光地へ人を呼び込むマップ作り～
4班	④宮古市を若者が住み続けられるまちにする ～漁業で地域の活性化を図る～	①公共交通の利用促進 ～通勤・通学利用者促進計画～
5班	④宮古市を若者が住み続けられるまちにする ～地域活性化を目指した 地元企業紹介パンフレットの作成を通じて～	④宮古市を若者が住み続けられるまちにする ～宮古市の土地を知る　起業するためには～
6班	④宮古市を若者が住み続けられるまちにする ～高校生が考えるイベントによる地域活性化～	
7班	①公共交通の利用促進 ～三陸鉄道の利用者を増やす商品開発に挑戦～	

（2）令和２年度

今年度は地元地域を知り将来の活性化を図るための方策を考えることに主眼を置き、「まちづくり学習会」を再開した。今年度最も苦労した点は新型コロナウイルス感染拡大への対応である。観光分野（浄土ヶ浜やフェリーターミナルの利活用）をテーマにしていたグループでは活動の継続が難しく、テーマの変更を余儀なくされた。また、昨年度同様、現地調査（宮古市内での聞き取り・アンケート）を予定していたが、感染防止対策を考慮し、実施を見送った。学習活動においても、学習形態の規模を縮小など大幅な内容変更を強いられた。

その中で、感染拡大の防止を考慮しながら、実施した学習会の内容について紹介する。

まちづくり学習会の様子（グループワーク）



中間発表会のスライド

中間発表会の様子

ア　令和２年度のまちづくり学習会の事業計画・内容　授業：「マーケティング」「ビジネス経済」

回　数	期　日	内　容　等
第１回	7月　1日（水）	昨年度の振り返り ポートフォリオ作成
第２回	7月 15 日（水）	中間発表会 研究テーマの再設定（新型コロナウイルスの拡大により）
第３回	9月 29 日（火）	グループワーク（調べ学習・グループ内での共有）
第４回	10 月 29 日（木）	物流に関する講義 講師：公益社団法人岩手県トラック協会　様
第５回	11 月 30 日（月）	グループワーク（調査研究）
第６回	12 月 10 日（木）	宮古市への移住定住パンフレット作成に向けた説明会 講師：宮古市　企画部　企画課 地域創生推進室　室長　中居　裕美　様 宮古市　産業振興部　産業支援センター 商業労政係　主査　佐々木　貴子　様 宮古おもてなし検定の学習（商業科２・５・６班） グループワーク（調査研究）
第７回	2月 18 日（木）	プレゼン作成・プレゼン準備・発表練習（学内）
第８回	3月 20 日（土）	イーストピアみやこでの発表会 研究の成果発表会、宮古市への提言等

イ　令和２年度　各班の研究テーマ（①～④の表示はメインテーマ）

	商　業　科	流通経済科
1班	②末広町商店街の魅力ＵＰ ～ゲストハウスがもたらす効果を探る～	③観光地へ人を呼び込む ～浄土ヶ浜遊覧船の今後の利活用～
2班	③宮古市への移定住パンフレット作成に向けて	③観光地へ人を呼び込む ～宮古の海上をバーチャル配信～
3班	③宮古市魚菜市場の魅力増進 ～付加価値のついたお買い物を目指して～	③観光地へ人を呼び込む ～観光地へ人を呼び込むＰＶ作成～
4班	④宮古市を若者が住み続けられるまちにする 漁業で地域の活性化を図るために ～アカモクを使った商品開発の可能性を探る～	①公共交通の利用促進 ～通勤・通学利用者促進計画～ バス会社のイメージキャラクター作成を通して
5班	③宮古市への移定住パンフレット作成に向けて	④宮古市を若者が住み続けられるまちにする 地域研究を通して宮古市の土地を知る ～他地区との比較による分析を通して～
6班	③宮古市への移定住パンフレット作成に向けて	
7班	①公共交通の利用促進 三陸鉄道の利用者を増やすための取り組み ～新しいイベントと商品開発の開拓を目指して～	

（3）今年度の特徴的な取り組みついて

ア　第４回まちづくり学習会　【物流に関する講義】

令和２年 10 月 29 日（木）の 3～4 校時「マーケティング」と「ビジネス経済」の授業において公益社団法人岩手県トラック協会様のご協力の下、物流に関する講義を実施した。目的は物流業界が震災当時に果たした役割を知ること、就職希望者が多い本校において物流業界に対する理解を深め、進路選択の幅を広げることである。学習会の内容については以下のとおりである。

〔行程〕

No.	時　間	内　容	備　考
1	10：50～11：20	実車体験	内容：運転席の死角体験と日常点検体験 （大型トラック２台）
2	11：20～11：25	大講義室へ移動	
3	11：25～11：40	講　話	講師：岩手県トラック協会 青年経営研究会　菅谷副会長　様 公益社団法人全日本トラック協会制作 「ＴＲＹ!ＴＲＵＣＫ!!ＴＲＡＮＳＰＯＲＴ!!!」に基づき物流業界の説明
4	11：50～11：57	ＤＶＤ放映	公益社団法人全日本トラック協会制作 「災害物流への挑戦～岩手県トラック協会の事例」
5	11：57～12：05	講　話	講師：岩手県トラック協会　佐々木宮古支部長　様 震災時の対応や地元の運送業界の実情について
6	12：05～12：30	グループワーク 意見交換	業界に対しての理解を深めるためのグループ活動 グループごとに質疑応答等
7	12：30～12：36	感想発表	代表生徒２名より
8	12：36～12：40	クロージング	アンケート用紙の記入

まず、グループを８つに分け、グループごとに大型トラックの乗車体験と点検作業を行った。乗車体験では大型トラックの運転手席に乗車し、死角の範囲について学んだ。運転席の高さがある分、目視できない箇所があることを知り、大型車の特性について理解を深めた様子であった。また、タイヤの空気圧やナットの取り付けの確認作業を体験し、毎日の安全点検を日常化している物流業界の責任感の高さを肌で感じ取ることができた。活動から多くの刺激を受けた様子であり、体験型の学びは学習効果が高い印象を受けた。

乗車体験の様子

点検作業の様子

大講義室に移動後、講話とＤＶＤ放映、グループワークのプログラムを体験した。その中で、物流業界がもたらす人々の暮らしへの影響、業界の仕組みやトラック業界の魅力について理解を深めることができた。また、ＤＶＤ上映では「災害物流への挑戦～岩手県トラック協会の事例」を視聴し、東日本大震災時の混乱の中、全国から集まった支援物資を災害支援の拠点である岩手産業文化センター（アピオ）から物流業者が協力して県内の被災地へ運送する様子を知ることができ、震災当時の困難な状況を思い浮かべながら、感謝の気持ちと復興への想いを新たにした様子であった。

ＤＶＤ上映の様子

生徒からの感想（一部抜粋）

・普段の生活ではあまり意識していないけど､様々な場面で支えられていることを再確認できました。
・大震災の時のトラック輸送の働き方を知って、日本はトラック業界の方に支えられているんだと強く実感してすごいと思いました。
・トラック輸送をしてくれている方がいるから、自分たちが生活できていることを改めて実感できたし、本当に感謝したいと思いました。トラックの安全装備を知ることができて、トラック業界のイメージが変わりました。
・運送会社さんが一緒になって災害時に動いていたことを知って、競争会社でも協力して被災地に物資を運んでいることにとても感動しました。
・震災のとき、とても大変だったのに、たくさんの人が一生懸命働いてくださったおかげで、物資が届いていたということがわかりました。
・今日の講義を聞いてみて、トラックの仕事は縁の下の力持ち的な存在だと思いました。「トラックは止めてはいけない」という言葉がとても心に残りました。どんな状況でも、トラックは動いていると思うと感謝の気持ちしかないです。

グループワークの様子

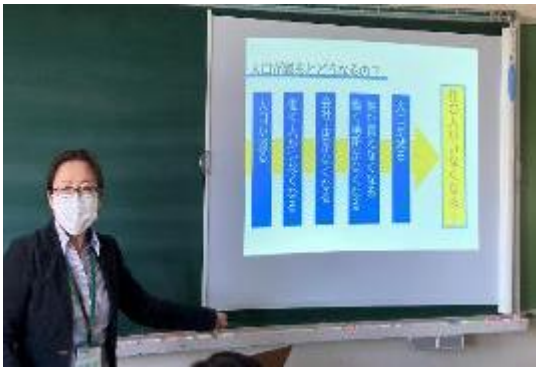
感想発表の様子

イ　第６回まちづくり学習会【宮古市への移住定住パンフレット作成に向けた説明会】

宮古市地域創生推進室より、令和３年度実施予定の宮古市への移住定住パンフレット作成について本校へ依頼があり、令和２年 12 月 10 日（木）にパンフレット作成に向けた説明会を実施した。講師は宮古市企画部企画課地域創生推進室室長の　中居裕美　様と宮古市産業振興部産業支援センター商業労政係主査　佐々木貴子　様のお二人で、講義形式の授業を展開した。まずは、配付資料に基づき宮古市の現状について説明を受けた。その後、今後の宮古市の地方創生と総合戦略について触れ、その中で、地域が抱える課題の一つである人口減少問題を取り上げ、今後も若年層を中心に人口が流出し続けた場合、生産年齢人口の減少による地元地域の衰退が予想されることを皆で共有した。資料から将来の人口統計の予想推移を知る中で、将来の人口減少率や居住者数に危機感を抱いている様子であった。その中で、人口減少に歯止めをかけるために宮古市が進めるＵターンやＩターンがしやすい環境作りや、関係人口を構築することで現在の居住地と宮古市を行き来しながら地域の企業・プロジェクトの課題解決や新しい展開を実現する遠恋複業課事業といった新規事業についても理解を深めることができた。講師とのやりとりの中で、高校生の視点での将来の地域振興について意見を求められる場面も多くあり、将来の「宮古市像」について真剣に考える姿がみられた。

その後、宮古市への理解を深めるために宮古観光文化交流協会が進める宮古もてなし観光・文化検定の学習会を行った。宮古おもてなし検定は宮古の観光・文化・歴史等、地域の魅力を再認識し、郷土愛を育むことを目的としており、今年度で第 14 回目の試験実施となる。今回は初級である一つ星検定の内容について調べ学習を行い、難易度の高い問題については皆で教え合うなど協力して学習に励む姿がみられた。

継続した学習を通して、地域に対する理解が増すことで、４月からの本格的な移住定住パンフレットの作成に向けて手ごたえを掴んだ様子であった。最後に、パンフレットの作成について高校生が企画する内容についても一部検討していただけることを教えていただき、作成目的に沿った内容の検討を進めていくことを確認した。



宮古市への移住定住パンフレット作成に向けた説明会の様子

説明会資料

おもてなし検定学習会の様子

7　成果と課題

（１）模擬株式会社「宮商デパート」の取り組み【外部講師を招聘しての接客講座】

生徒からの感想（一部抜粋）

ア　成果

・相づちやうなずきがあった方が聞いてくれる安心感があることがわかった。
・接客をすることで一番大切なことはお客様の気持ちに寄り添うことだと知ることができた。
・相手の気持ちに寄り添うということはこれからの学校生活でも大切と学んだので、人と人とのつながりを大切にしていきたい。
・いろんな人と会話をすることで、いろんな価値観や自分では思いつかない考えなどを見つけることができ、人との気持ちに共感することができると思った。これからもクラスの人や同じ部活の人だけでなくたくさんの人とコミュニケーションをとって自分を成長させていきたいと思いました。

イ　課題

宮商デパートの開催中止が決定した後の実施となったため、販売活動へのモチベーションや接客のイメージを持てない生徒もいた。販売活動はあくまでも切り口であり、他人との関わりが成長へつながることをイメージさせる外部講師の授業がとても参考になったので、今後の授業展開に取り入れたい。引き続き体験学習を行うことで、学習効果が高まるのではないかと感じた。

また、評価の方法について実施後の感想や学んだことの数値化を図るためにアンケート実施やポートフォリオ作成の実施を検討したい。

（２）まちづくり学習会について

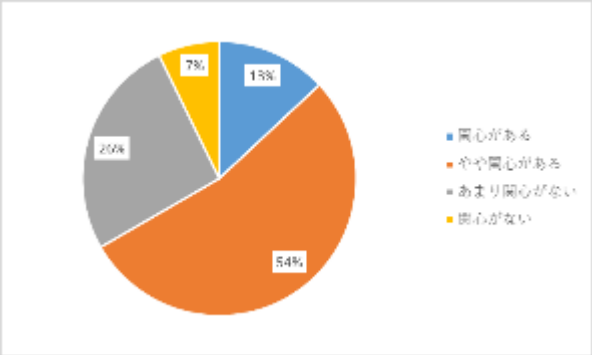
【ポートフォリオ作成・アンケート結果より】

対象：履修クラス（2 学年：商業科 40 名　流通経済科 28 名　計 68 名）
未履修クラス（2 学年：会計科 14 名　情　報　科 36 名　計 50 名）

ア　成果

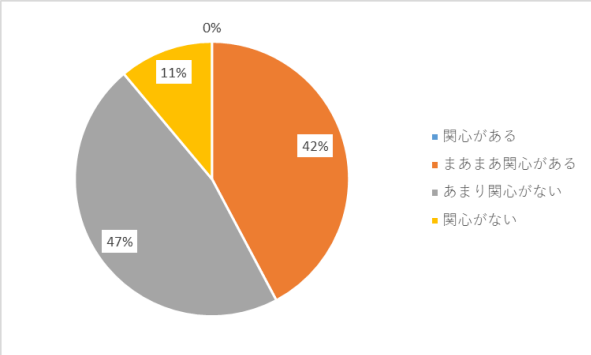
Q１　宮古市のまちづくりに興味があるか？

令和２年度　履修クラス（7 月開始時）



【関心がある・やや関心がある】→　67%

令和２年度　未履修クラス（12 月実施）

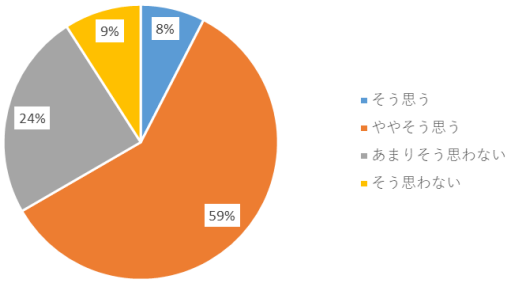


【関心がある・やや関心がある】→　42%

未履修クラスに比べ、１年間まちづくり学習会に取り組んだ生徒の方が【関心がある・やや関心がある】の割合が高くなった。これは１年間の学習会の取り組みと校外での現地調査で地域の方々と触れ合った経験や各種講義を聞く中で、将来のまちづくりに対する関心・意欲が高まったためと考えられる。

Ｑ２　昨年度のまちづくり学習で宮古市に関する知識が増えたと思いますか？

令和２年度　７月開始時（履修クラス）



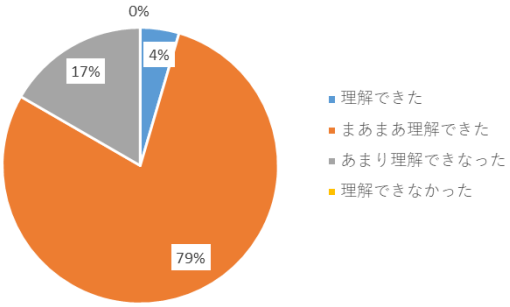
【そう思う・ややそう思う】→　67%

１年間の学習会での学びを通じて宮古市に関する知識が増えたと感じる生徒が全体の 67%を示した。

学年を追うごとにテーマの絞り込みや研究対象に対する調査研究の深まりがこの結果につながったと思われる。

Ｑ３　昨年度の授業の内容についてどの程度理解できましたか？

令和２年度　７月開始時（履修クラス）

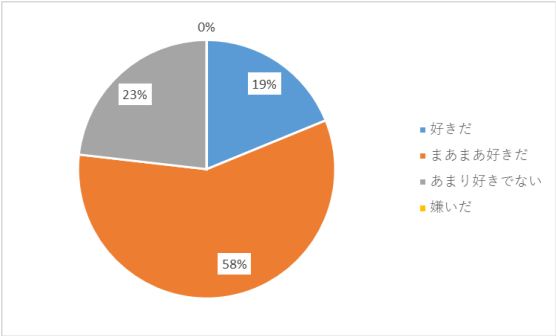


【そう思う・ややそう思う】→　83%

学習会の理解度を図る質問では全体の 83%が理解し、学習内容が定着していることがわかった。一方、全体の 17%が理解できていないことがわかった。グループでの活動が主のため、グループ内で学習が停滞している個人が一定の割合存在していることがわかったので、個別の学習支援を行い対応したい。

Ｑ４　あなたが住んでいる地域をどう感じていますか？

令和２年度　７月開始時（履修クラス）

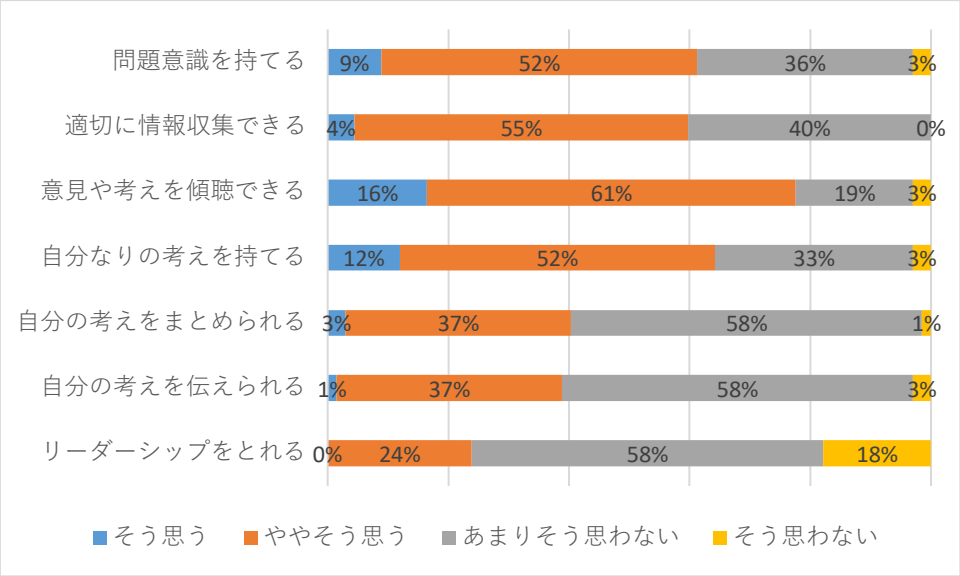


【そう思う・ややそう思う】→　77%

学習会を経験した生徒は地域に対する愛着が高いことがわかった。今年度のアンケートは未実施のため、今年度の学習を通じてどのように変化していくか注視する必要がある。また、記述式の設問もアンケートに組み入れることで、より具体的な理由を知ることが可能となる。

Ｑ５　以下の資質・能力について、現段階でどの程度身についていると思いますか？

令和２年度　７月開始時（履修クラス）



【そう思う・ややそう思う】が高い値
意見や考えを傾聴できる　→　67%
自分なりの考えをもてる　→　64%

【そう思う・ややそう思う】が低い値
自分の考えをまとめられる　→　40%
自分の考えを伝えられる　→　38%
リーダーシップがとれる　→　24%

生徒の資質・能力について身についていると思う事柄について発問を行った。高い値を示したのは、【意見や考えを傾聴できる】【自分なりの考えをもてる】の２項目であった。学習会での問題提起に対し、自分なりの考えをまとめる活動や講演会等の拝聴を通して身についたと感じる生徒が多かったと思われる。

逆に、【自分の考えをまとめられる】【自分の考えを伝えられる】【リーダーシップをとれる】の３項目は低い値となった。年度末に向け、今年度のまとめと成果発表会の実施を予定しており、この学習活動を行うことで数値の改善が期待できる。

イ　課題

学習会を継続する中で、地域の産業や観光資源について知る機会が少ないため、地域に対する理解が乏しい印象を受けた。地域が抱える課題を知る上でも地域に対する理解を深める必要があり、「地元学」に代表されるような地元地域を知り、地域とのかかわりを増やす教育機会を１年次から設定する必要があると感じた。この問題を解消するために、今年度初めて「宮古市おもてなし検定」に向けた学習会を導入してみたが、地域の現状や観光資源を学ぶ上で大変有効であると感じた。今後の実施について検討を行いたい。

昨年度末から新型コロナウイルス感染拡大への対応により現地調査など校外での活動が制限されるなど、生徒に身に付けさせたい力をつけさせるための授業展開が難しかったことも課題の一つであった。今後の情勢を考慮しながら、可能な範囲で外部とのかかわりを持ち、生徒自身の成長につながるような発展的な学びに高めたいと考える。

８　今後の方針・取り組みたいこと

1 年次から取り組んできた「まちづくり学習会」は 3 年次の課題研究（3 単位）にて継続実施の予定である。研究活動を 3 年間を継続しまとめと成果発表会を行い、成果や課題を共有することで、地域振興に対する想いを育むことができると考える。将来的に、3 年生がまとめた研究の成果や課題を下級生が継続して研究することでさらに内容のブラッシュアップも期待できることから、行政や企業からの協力をいただきながら、この事業を継続し、将来のまちづくりに高校生が参画していく仕組みを作りたい。

また、復興教育スクール（交流学習スクール）の事業評価を行う中で、いわての復興教育プログラムにおける 3 つの教育的価値と具体の 21 項目を達成できたか測定するための仕組み作りにも取り組んでみたい。継続的な取り組みのもと、生徒自身も成長をより実感できるような評価方法の検討が必要だと考える。

９　まとめ

震災から 10 年が経過しようとする中で、復興に係わる活動は震災ボランティアのような体験型の活動から伝承や交流会といった活動へ年々形を変えている。その中で小・中学校で取り組まれている復興教育を受け継ぎ、高校段階でもいかに継続できるかが重要であると考える。特にも現在の高校生は発災当時小学生以下で、当時の状況について記憶が薄れてきている現状がある。さらに今後もこの傾向は続き震災当時の記憶が全く無い、または震災の経験がない生徒が高等学校に入学してくる時が確実に訪れる。この状況を受け、震災の「風化」を避けるために、震災を経験した私たちがいかに伝承していくかが今後の復興教育の課題となる。

地域の「復興」に向けて共に歩んできた想いを共有しながら、郷土への愛着や誇りを持てる人作りが中・長期的な復興教育の目的であると私は考える。それには、各学校の教育活動として組織的に取り組むとともに、目標達成に必要な教育内容を教科横断的な視点で有機的な指導を行うことが必要不可欠である。郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成することを主眼に置き、今後も復興教育の推進に努めたいと切に願う。

１０　おわりに

本校が復興教育スクール（交流学習スクール）に取り組む中で、多くの方々に毎回様々な学びを提供していただき運営できたことに感謝の気持ちで一杯である。特にも、まちづくり学習会の運営やポートフォリオ製作においてご協力をいただいた岩手県立大学総合政策学部　宇佐美　准教授を始め、授業で生徒への指導に携わっていただいた総合政策学部の学生の皆さん、まちづくり学習会の外部講師としてご協力いただいた方々、模擬株式会社「宮商デパート」の運営への助言や接客講習講座をプロデュースしていただいた盛岡ターミナルビル株式会社の皆様、接客講習の外部講師としてご協力いただいた講師の方々にこの場をお借りして御礼を申し上げます。

【令和元年度から２年度まで本事業にご協力いただいた皆様】
岩手県立大学総合政策学部　准教授　宇佐美　誠　史　様
岩手県立大学総合政策学部　４年生　秋　田　瑞　樹　様
公益社団法人岩手県トラック協会　様
盛岡ターミナルビル株式会社　経営企画部　兼　総務部　広報室　千　葉　きり子　様
盛岡ターミナルビル株式会社　ＳＣ営業本部 営業部　香　木　なつみ　様
株式会社アダストリア　北日本支店　グループマネージャー　高　村　暁　穂　様
宮古市　企画部　企画課　地域創生推進室　室長　中　居　裕　美　様
宮古市　産業振興部産業支援センター　商業労政係　主査　佐々木　貴　子　様
宮古市　都市整備部　都市計画課　管理計画係長　平　井　　純　様